



日本国特許庁
JAPAN PATENT OFFICE

別紙添付の書類に記載されている事項は下記の出願書類に記載されている事項と同一であることを証明する。

This is to certify that the annexed is a true copy of the following application as filed with this Office

出願年月日
Date of Application:

2000年10月18日

出願番号
Application Number:

特願2000-318172

出願人
Applicant(s):

松川 幸弘

CERTIFIED COPY OF
PRIORITY DOCUMENT

2001年 5月18日

特許庁長官
Commissioner,
Japan Patent Office

及川耕



出証番号 出証特2001-3041264

【書類名】 特許願

【整理番号】 PI379MKY

【提出日】 平成12年10月18日

【あて先】 特許庁長官殿

【国際特許分類】 G06F 17/60

【発明者】

【住所又は居所】 愛知県名古屋市緑区鳴海町字砂田3番2

【氏名】 松川 幸弘

【特許出願人】

【識別番号】 500212734

【氏名又は名称】 松川 幸弘

【代理人】

【識別番号】 100082500

【弁理士】

【氏名又は名称】 足立 勉

【電話番号】 052-231-7835

【選任した代理人】

【識別番号】 100106035

【弁理士】

【氏名又は名称】 田中 敏博

【電話番号】 052-231-7835

【先の出願に基づく優先権主張】

【出願番号】 特願2000-137363

【出願日】 平成12年 5月10日

【手数料の表示】

【予納台帳番号】 007102

【納付金額】 21,000円

【提出物件の目録】

【物件名】 明細書 1

【物件名】 図面 1

【物件名】 要約書 1

【包括委任状番号】 0006970

【ブルーフの要否】 要

【書類名】 明細書

【発明の名称】 デジタル配信する音楽等に併せた企業情報配信システム

【特許請求の範囲】

【請求項1】 楽曲又は映像の直前又は直後に企業情報を配し、それを1つのデジタルコンテンツ等として配信することを特徴とする企業情報配信システム。

【請求項2】 楽曲又は画像に企業情報を重ね、それを1つのデジタルコンテンツ等として配信することを特徴とする企業情報配信システム。

【請求項3】 楽曲又は画像に企業情報を重ね、それを分離可能な2つのデジタルデータとし、これを併せて1つのデジタルコンテンツ等として配信する企業情報配信システム。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】

本発明は、デジタルコンテンツ等に企業情報を挿入して、これを配信するシステムに関する。

【0002】

【従来の技術及び発明が解決しようとする課題】

近年、インターネット等を通じて、音楽、動画、静止画等（以下「デジタルコンテンツ等」という）のデジタルデータを有料で配信する配信システムが知られている。

【0003】

しかし、このようなシステムにおいて、ユーザが上記デジタルデータを取得するためには、一定の料金を支払う必要があるため、そのダウンロードを躊躇することも多々ある。このため、ユーザにとって、このようなダウンロードの料金は可能な限り安価であることが望ましい。

【0004】

この際、例えば、ある演奏家等（楽曲）のスポンサーとなっている企業が、自己の企業の宣伝を兼ねて、当該デジタル配信に費用を投資することができるシステムが構築されれば、ユーザに対して楽曲を安価に提供することができ、楽

曲を取得したいユーザ側にとっても、当該企業側にとっても有益である。さらに、著名になっていない演奏家等の楽曲をユーザが取得する余裕もできるため、当該演奏家等にとって、より多くの作品発表の場を提供できるという相乗効果も期待できる。

【0005】

本発明は、このような問題に鑑みてなされたものであり、有料でデジタル配信するデジタルコンテンツ等に企業広告を併せて配信することにより、デジタルコンテンツ等の料金を、受信者側において一定量無料又は減額にし、有料デジタルコンテンツ等の配信を拡大させることを目的とする。

【0006】

【課題を解決するための手段】

上記課題に鑑み、請求項1に記載の企業情報配信システムは、楽曲又は映像の直前又は直後に企業情報を配し、それを1つのデジタルコンテンツ等として配信することを特徴とする。

【0007】

また、請求項2に記載の企業情報配信システムは、楽曲又は画像に企業情報を重ね、それを1つのデジタルコンテンツ等として配信することを特徴とする。

さらに、請求項3に記載の企業情報配信システムは、楽曲又は画像に企業情報を重ね、それを分離可能な2つのデジタルデーターとし、これを併せて1つのデジタルコンテンツ等として配信することを特徴とする。

【0008】

上記企業情報配信システムは、デジタルコンテンツ等が編集、ダビング等されても、音質、画質が劣化しない特性に着目し、これに企業情報を挿入し、1つのデジタルデーターを作成することにより、有料コンテンツを無料コンテンツ等として配布し、コンテンツの配信量を増大させようとするものである。

【0009】

【発明の実施の形態】

以下、本発明の好適な実施例を図面に基づいて説明する。

【第1実施例】

図1は本実施例に係る企業情報配信システムの概念図である。

【0010】

同図に示すように、企業情報配信システム1は、好みの音楽を入手したいユーザーと、自社の宣伝広告を行いたい広告主とが、インターネットによる音楽配信企業を介して利用するものである。

具体的には、インターネット上の音楽配信企業サイトには、企業情報を併せて配信することを希望するコンテンツの一覧情報とその価格が公開されている。自社の企業情報の配信を希望する企業（広告主）は、配信する企業情報の内容と配信希望コンテンツと配信数量を返す。すると、音楽配信企業サイト側は、このとき受け取った要望に基づき、デジタルコンテンツ等に企業情報を併せてデジタルデータを作成し、デジタルコンテンツ等の一覧情報を、消費者向けにインターネット上に公開する。

【0011】

このようなデジタルコンテンツ等は、繰返し再生される性質を有しているので、1回のデジタルコンテンツ等の配信で、何度も企業情報を受け入れてもらえる効果がある。また、著名になっていない演奏家等により多くの作品発表の場を提供できる。

【0012】

図2は、当該企業情報配信システム1において実行される処理を示すフローチャートである。

同図に示すように、まず受注時には、音楽配信企業サイトは、同時に配信可能な楽曲等の一覧、条件、価格を表示するサイトをインターネット上に公開する（S110）。企業情報の配布を希望する企業（スポンサー企業等）は、パスワードを入力して音楽配信企業サイトにアクセスし（S120）、配信する企業情報の内容と配信希望のコンテンツと配信希望数量等を返信する（S130）。すると、音楽配信企業サイトの運営者は、企業の希望に応じて、所定の楽曲等に企業情報を重ねたデジタルデータを作成し、スポンサー企業に返信する（S140）。スポンサー企業は、この内容を確認した上で了承の旨を返信する（S150）。音楽配信企業サイトの運営者は、このスポンサー企業の了承の返事がもらえた

段階で、配信用のサイトにアップロードする（S160）。

【0013】

そして、運用時には、ユーザー（配信希望者）が音楽配信企業サイトにアクセスし、楽曲をダウンロードする（S170）。

以上のような企業情報配信システムによれば、下記の作用効果が得られる。

1、 有料であっても何万枚と売れる程のセンスの良い楽曲等に、自社の企業情報を重ねることにより、カレンダー、手帳、うちわ、タオル等に自社の企業情報を刷り込むのでは図れないイメージアップが図れる。しかも、配布単価はこれらの物品と同様、安価に抑えられる。これは、配布物が物理的な形を有するものではなく、単なるデータだからこそ実現できる。

2、 一般に流通している楽曲等に企業情報を重ね合わせると、利用者は、何度も何度も繰返し聴く為にその曲をダウンロードするのであるから、何処か、違う場所でその曲を聴いても、その企業情報を思い出してしまうことになる。その曲と企業イメージが連携して記憶に刷り込まれてしまうからである。

3、 一般にCMソングは、同上の効果を狙ったものであるが、この発明は、CMソングをテレビラジオ等を使って流さなくとも、極めて安い価格から同様の効果を提供できる。

4、 一方、演奏家の側からは、CMソングが、自らを著名にするものとして非常に注目されている。それは、一般大衆が、無料で、何度も何度も耳にする機会があり、しかも、商品と併せて記憶され、記憶を呼び起こされる機会が多いからである。

5、 チャンスがあればCMソングをやりたいと思っている演奏家は非常に多いし、実際そうなるとその演奏家は著名になっていく。この発明は、まだ著名になっていない演奏家達に、著名になる機会をより多く与えることになる。

6、 利用者側からは、新しい演奏家の楽曲を、より多く耳にする機会を増やすことができる発明である。

7、 利用者、演奏者とも、楽曲等そのものに価値があるので、企業情報は、可能な限り音量等を低く設定し、楽曲等の始まる最初の5秒程度若しくは終わりの5秒程度に、演奏家、楽曲等の紹介と共に企業情報を違和感なく流す方法を考え

ている。例えばD J風に、「曲は「〇〇〇〇娘」の「踊るダンスサイト」、提供は、〇〇通！〇〇通！〇〇通！」等のように。

[第2実施例]

本実施例は、位置情報により抽出した携帯端末に金銭引換権付きメールを配信するシステムである。

【0014】

インターネット上のメールであれ、携帯情報端末上のメールであれ、メールは、広告宣伝媒体として多く使われている。ごく一般的なものとして、メールにある種の特典を与え、利用者のメールアドレスを聞き出し、本人の了解のもと、企業情報付きのメール若しくは、企業情報そのものを配信するというものである。

【0015】

しかし、その特典を与えるためのは、企業広告、商品広告、あるいはマーケティング調査等のスポンサー企業のニーズを満たさなければならず、制度としては登録制として、その登録時等に若しくはメール配信の都度、多くの個人のプロフィール項目やアンケートに答えさせるざるを得ない。また、場合によっては個人のプライバシーまで答えざるを得ない。

【0016】

さらに、利用者側からは、一旦メール配信の許可を与えると、配信されるメールは必ず受け取らなければならず、通常メールの利用に支障をきたす場合も多い。

そこで、本実施例は、携帯電話のG P Sを利用した位置情報サービス、若しくはP H Sの基地局を利用した位置情報サービスを利用し、この問題を解決するものである。

【0017】

すなわち、本実施例の企業情報配信システムは、利用者の負担を極力減らし、参加したいときだけ参加することが可能な、事前登録制の利用者参加型のメール配信である。

このため、氏名、その他のプライバシーにかかわることを一切聞かずに、企業のニーズを満たすことができる。性別、年齢等のみで充分である。なぜなら、既

にそこに来てくれている人が対象だからである。

【0018】

また、利用者参加型ということで、自宅、職場、学校等利用者の通常の生活圏を除外したいときは、市外局番と市内局番を登録すれば除外できる。

百貨店への集客、イベントへの集客、地域振興策等様々な場面での応用が可能である。

【0019】

以下に、本実施例を適用した具体的事例を示す。

【具体的な事例】

今日のメールは、いつもの広告メールと違ってちょっと謎めいていた。どうやら浜崎○○○の新曲の発売イベントの情報らしい。メールの指示に従い指定されたアドレスに○モードでアクセスしてみる。8月3日、午後2時、渋谷交差点とある。来週の日曜日だ。間違いない、あれだな。と美穂は直感した。

【0020】

渋谷に着いたのは1時40分。友達と2人で来た美穂は、自分達と同じような女の人が何人も居ることに気づいている。やっぱり競争だな、と思った。1時50分突然携帯の着信ランプが光った。友達のもだ。そちらじゅうで携帯が鳴っている。アクセスアドレスとパスワードが配信されてきた。ここ渋谷に、今いるメールサービス会員にだけ配信されるパスワードだ。先着5,000名。受付は2時10分からだ。

【0021】

ちょうど2時、いきなり渋谷の3つのオーロラビジョンに浜崎○○○が映し出された。明日発売の新曲プロモーションビデオが2回流れる。フルコーラスで見られるのはここが最初だ。そして、2時10分。パスワードを受け取った会員は、配信されたパスワードを携帯に打ち込みはじめた。先着5,000名だけの、新曲の無料ダウンロードが一斉に始まった。美穂は3,000番目のアクセスだった。ここでダウンロードした曲には、特別に浜崎○○○本人のメッセージが同時にしている。今回は浜崎○○○自身がチャリティーとして寄付をする企画だったが、今後は、通常どおり、彼女の曲にも企業広告が入るみたいだ。曲の紹介

は、有名なD.J.がするので逆に期待できる。

【0022】

新譜がいつもただで手に入るようになってから美穂は、有料ダウンロードを利用していない。でも、インディーズはほとんど全部無料ダウンロードだし、メジャーな歌手も、新譜は、このような無料ダウンロードの企画が多くて困らない。当然、この情報は、位置情報得を利用した携帯メールサービスでしかつかめないから、学校中の友達が皆加入してるので当然だな、と美穂は思った。

【0023】

[第3実施例]

本発明の技術思想により、ナップスターやグヌーテラと共に存し、ユーザーと楽曲の著作権者の両者が満足するインターネット上の音楽配信事業プランを提案できる。

【0024】

インターネット上におけるナップスターやグヌーテラの存在・存亡は、音楽関係者やネット関係者のみならず、世界中の大きな関心事です。楽曲の著作権者の権利を侵害せず、しかも現在、音楽を無料でダウンロードしている視聴者の満足する音楽配信システムこそが、今、求められているシステムであることは世界の共通認識ですが、その音楽配信の事業プランはいまだ存在しません。

【0025】

高度な透かし技術を用いて楽曲にパスワード等を埋め込むことも重要ですが、無料で音楽を聞きたいという欲求がある限り、その解読は時間の問題です。音楽の提供者だけでなく、利用者も満足させられなければ結果的に現状の問題を解決することは出来ません。

【0026】

この事業プランは、まさにこの問題を解決する音楽配信の事業プランであり、具体的な内容は以下の通りである。

(1) 既存の音楽配信事業者のサーバーから直接楽曲をダウンロードしているユーザーに対し、当社のサーバー経由でダウンロード出来るようにシステムに変更を加える。

(2) 当社のサーバー経由で音楽ファイルを取得した場合には、「楽曲ファイル」と同時に「カウント管理ファイル」、「カウント管理プログラム（数十バイト程度の極めて小さなプログラム）」が同時に、利用者のパソコンにダウンロードされる。

(3) 当社のサーバー経由でダウンロードする音楽ファイルはすべて無料でダウンロードできるが、曲のイントロ部分とエンディング部分にそれぞれ5秒程度企業広告が重ねられている。これは、曲調に合わせて有名D.J.やミュージシャン本人が録音したもので、音量も低く利用者には気にならないものとなっている。

(4) しかし、企業広告の入った楽曲は利用者にとっては完全な楽曲ではなく、これをコレクションすることは、マニアにとっては耐え難いのも事実である。

(5) そこで、このシステムでは、楽曲を5回聴くと企業広告が消え、以降何度聴いてもそのパソコンで聴く限り、企業広告は現れてこないようになっている。これはユーザーのパソコンのCookiesに書き込まれた「カウント管理プログラム」により管理される。

(6) しかし、これを他のパソコンや専用のmp3プレーヤー等に転送した場合には、再度、企業広告が現れ、これを消すためには更に5回楽曲を聴かなければならない。（専用のmp3プレーヤーについては、ハードウェアメーカーがこのシステムを導入した時点で企業広告が外れることになる。）

(7) ナップスター や グヌーテラ その他の手段を使っても、ダウンロードしたパソコン以外のパソコンに転送された音楽ファイルは、そのままでは再生できない仕様になっている。

(8) そこで、ユーザーは利用パスワードの発行を当社に対して要求し、当社はそのパスワード（必要なファイルを含む。）を無料で発行する。これで、2次的ユーザーも無料で音楽を聴くことができる。（ナップスターの開発者やグヌーテラの関係者の同意を得て、このユーザーの要求を自動的に行うよう、プログラムの変更を行えば、利用者の負担は更に軽減される。）

(9) この利用パスワードの発行は、主として楽曲ファイルの転送の回数を把握するために行われるが、この他、添付した広告の配信元企業名、転送された地域の情報等も取得する。

(10) 転送の回数を把握することにより、楽曲の著作権者に対する公正な使用料の算出が可能となり、楽曲の提供が受けられることとなる。

【0027】

また、上記プランによる収益モデルとしては、下記のものが考えられる。

(1) 楽曲に重ねて広告を配信しようとする企業の共同体を設立し、そこに一定の広告用の資金をプールすることとする。共同体は、企業広告の配信数に応じた広告料の徴収を各企業に対して行い、同時に著作権料の支払い計算をし、支払い、これを繰り返す。当社は、共同体より当システムの利用料を得る。

(2) 各社の音楽配信サイトを横断的に集約し、1つの曲についてユーザーが有料配信と無料配信を自由に選べるサイトを立ち上げ、音楽配信代行収入を得る。

(無料配信を扱えるのは当社のサイトだけであり、そこで有料配信するメリットは音楽配信する各社にとって大きい。)

そして、当該事業プランによれば下記の効果が得られる。

(1) 企業広告を音楽に重ね合せることによって、スリコミ効果が期待できる。(セブンイレブンで有線放送を聞くと、思わずUCCの缶コーヒーが欲しくなる等。)

(2) 最終的に完全な形の音楽が無料で手に入るのであれば、ナップスター やグヌーテラの利用者も、あえて法律に触れるかもしれない行為や、自分の好きなミュージシャンの権利を損なう行為を行う意味がなくなる。

(3) 既存の音楽配信事業者においても、正常な音楽配信のスタンダードモデルを定着させるために、急いで音楽配信システムを導入する必要がなくなり、また、この無料配信と有料配信が併存することにより、有料配信において適正な利益を確保した値段設定を行うことが可能となる。

(4) 「楽曲に重ねた企業広告を回数カウントして外す。」というこの事業モデルにより、著作権者、ユーザー、広告配信企業、そして音楽関係企業の4者のニーズを満たす事業モデルが完成することになる。

【0028】

ただし、以下の点に留意する必要がある。

(1) 楽曲から広告を外す部分につき、今すぐ実行できるロジックは完成して

いるが、今後、ダウンロード時間の短縮等をするために用意したプログラムが完成すれば、ユーザーにとってこのシステムは、さらに利用しやすいものとなる。

(2) PC用のプログラムの開発は単独で出来るが、専用のmp3プレーヤーでこのシステムを利用出来るようにするには、プレーヤーのハードウェアメーカーの協力が必要となる。（このシステムがスタンダードになれば、これをプレーヤーに組みこむことのデメリットはメーカーにない。）

(3) ナップスター やグヌーテラに転送報告の機能が埋め込めれば、ユーザーは利用パスワードの発行を意識しなくて済むことになり、非常に利用しやすいシステムとなる。（ナップスターについてはそれ自体の存続が問題となっており、法律問題をクリアーするこの事業モデルとの協調はナップスターにとっても大きなメリットがある。）

(4) インターネット上に国境は存在しないが、企業広告には、言語や商圈の壁が存在するのも事実である。サーバーの存在地によってある程度区分はできるが、どの範囲の配信を有効カウントとするかの著作権者、広告配信企業との調整が必要となる。

【0029】

以下に、本実施例の具体的流れを図3の概念図に基づいて説明する。

- (1) 専用サーバーは、楽曲サーバーから楽曲を取得する。
- (2) 専用サーバーは、広告サーバーから広告を取得する。
- (3) ユーザーは、専用サーバーにアクセスし、広告付きの楽曲その他必要なファイルをダウンロードする。ダウンロードした楽曲を、ダウンロードしたパソコンで指定回数再生すると広告の外れた楽曲が再生できる。
- (4) ユーザーが、楽曲をダウンロードしたパソコン以外のパソコンや専用プレーヤーに楽曲を転送した場合には、そのままでは楽曲は再生できない。
- (5) ユーザーは、楽曲を再生するために必要なパスワードの発行を専用サーバーに求める。
- (6) 専用サーバーはユーザーの請求に応じ、パスワードを発行する。パスワードの発行を受けた楽曲は以降(3)、(4)の繰り返し。

【0030】

ただし、上記（4）の転送時に、専用サーバーに転送の事実その他の情報が取得できれば、楽曲は広告付きで再生できることとなり、（5）、（6）の作業は必要なくなる。

以上、本発明の実施例について説明したが、本発明の実施の形態は、上記実施例に何ら限定されることなく、本発明の技術的範囲に属する限り種々の形態をとり得ることはいうまでもない。

【図面の簡単な説明】

【図1】 本発明の企業情報配信システムの概念図である。

【図2】 本発明の企業情報配信方法を説明するフローチャートである。

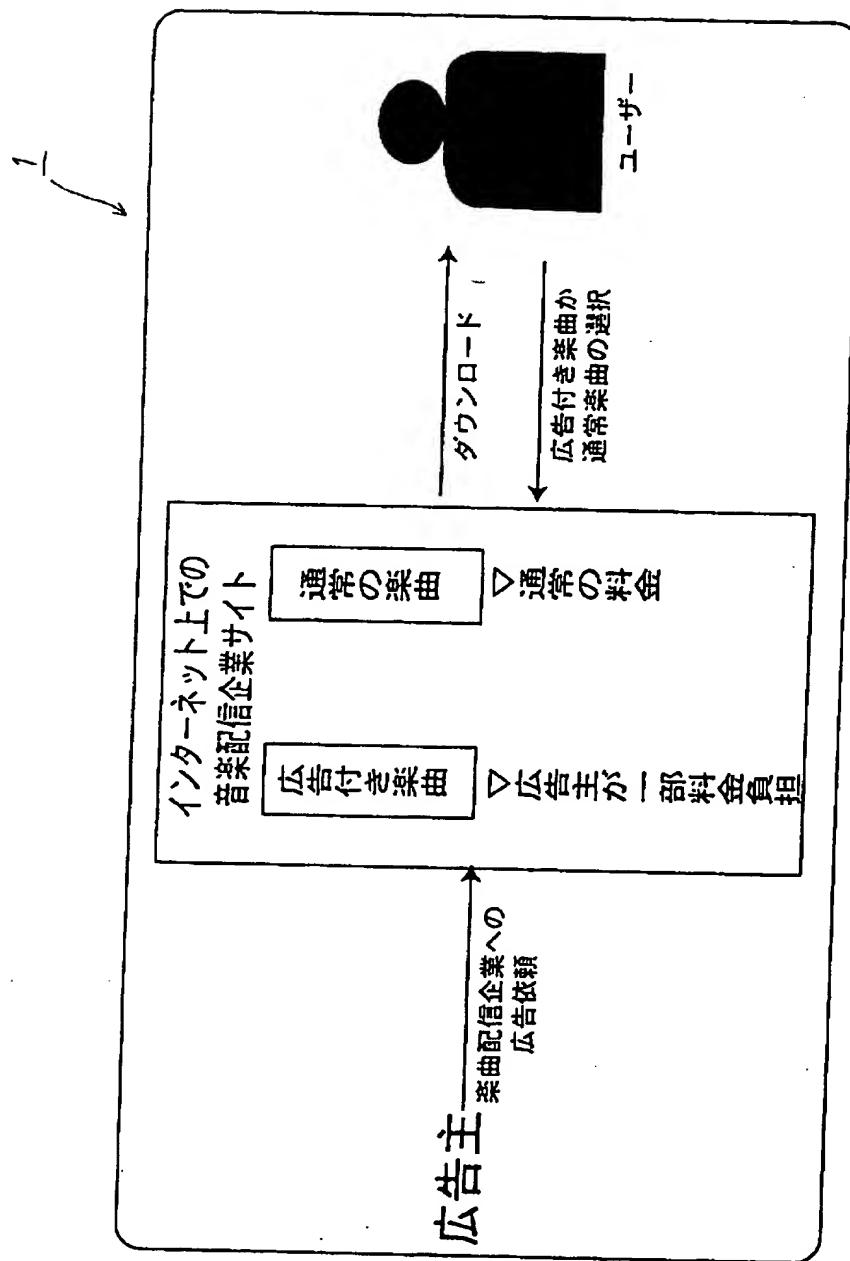
【図3】 本発明の企業情報配信方法の別実施例を説明する概念図である。

【符号の説明】

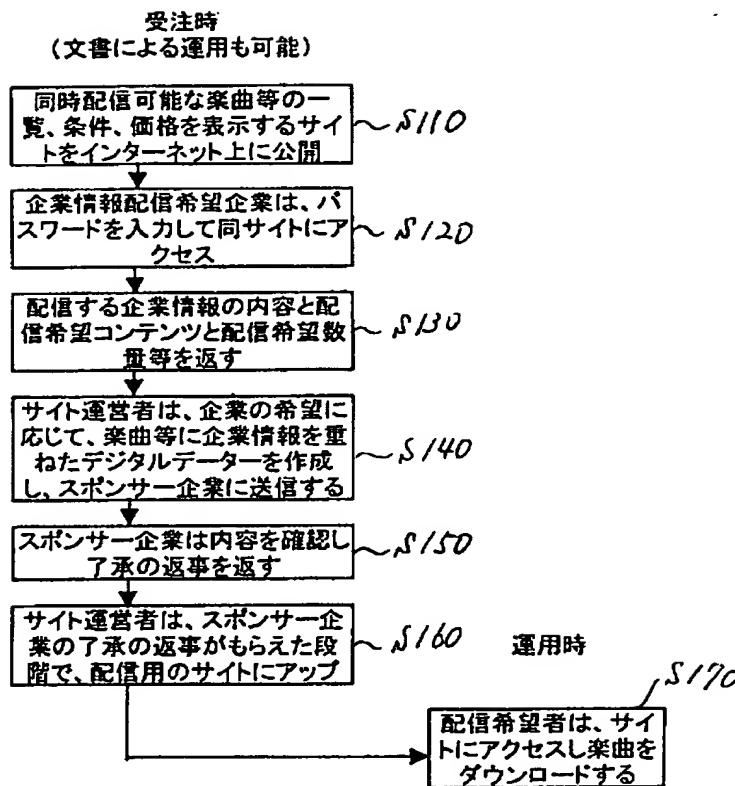
1 . . . 企業情報配信システム

【書類名】 図面

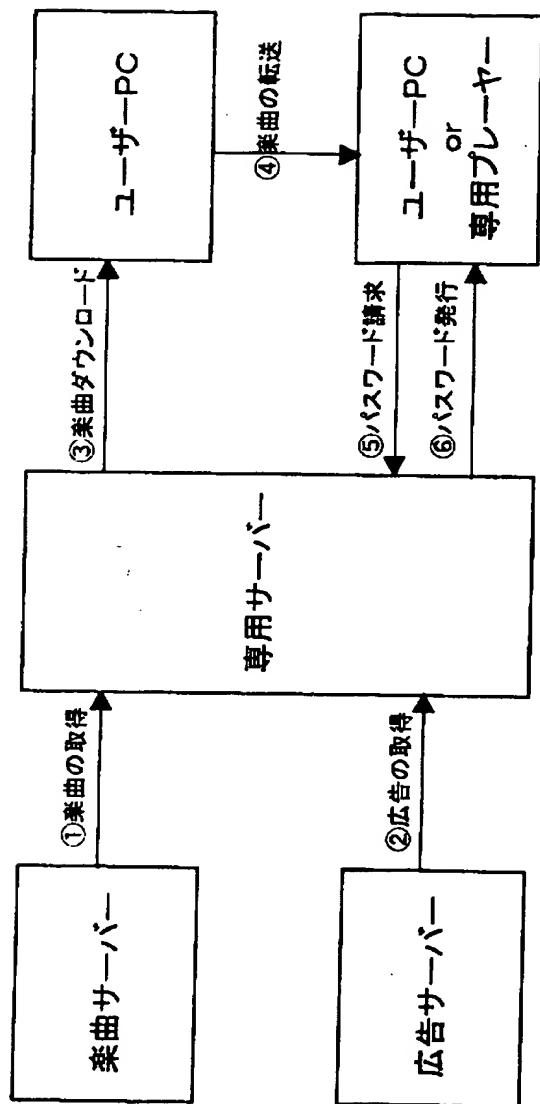
【図1】



【図2】



【図3】



【書類名】 要約書

【要約】

【課題】 有料でデジタル配信する音楽、動画、静止画（デジタルコンテンツ等）に企業広告を併せて配信することにより、デジタルコンテンツ等の料金を、受信者側において無料にし、有料デジタルコンテンツ等の配信を拡大させる。

【解決手段】 本発明の企業情報配信システムでは、携帯情報端末等にデジタルコンテンツ等を配信するときにその楽曲又は映像の直前又は直後に企業情報を配し、それを1つのデジタルコンテンツ等として配信する。又は、楽曲又は画像に企業情報を重ね、それを1つのデジタルコンテンツ等として配信する。

【選択図】 図2

出願人履歴情報

識別番号 [500212734]

1. 変更年月日 2000年 5月 9日

[変更理由] 新規登録

住 所 愛知県名古屋市緑区鳴海町字砂田3番2
氏 名 松川 幸弘